

1. 活動の時系列 (記念品事業委員会)

時系列	対応者	活動内容
2013/ 8/11 (日)	委員全員	プレ同窓会 (卒業 29 周年) を開催。記念事業実行委員会の設立、規約制定、委員選出、記念事業計画について、満場拍手で承認を得る。
8/31 (土)	各委員 (8 名)	プレ同窓会の反省会。記念品事業は終陵会館のエクステリア整備を行うことが多いとのことで、記念品事業の委員を 1 名 (岩部) 追加。
10/18 (木)	記念品事業 委員 (岩部、 原田、菅沼)	記念品事業として何を贈るべきかを考えるため、半田高校の状況を確認 (現場検証)。以下の分担でアイデアを持ち寄ることで合意。 ●終陵会館エクステリア：岩部 ●校舎内、体育館内：原田
11/21 (木)	岩部	終陵会館エクステリア案の作成 (見積含む) のため、再度の現場確認。
12/11 (水)	記念品事業 委員 (岩部、 原田、菅沼) 事務局 (三 輪、永井)	アイデアが出揃い、運営委員会 (12/22) の前に、事務局に披露。 ●終陵会館エクステリア：3 案、いずれも会館南側の未整備部に着手の案 A 案：ウッドデッキ (中央部の窓付近) + 犬走り設置 B 案：ウッドデッキ (中央部の窓付近) のみ設置 C 案：インターロッキング (レンガ状のブロックを組み合わせた歩道) 設置 ●校舎内、体育館内：4 案、原田委員の木工スキルを駆使して製作 # 1：校舎正面玄関のトロフィー類展示ケースの製作 (増設 or 新設) # 2：校舎正面玄関の来客用下駄箱・傘立て・荷物用カウンターの製作 # 3：半田の祭りの山車の模型の製作 (展示品とする) # 4：体育館用スピーカーの製作 (米ウエスタンエレクトリック社の大型ヴィンテージ・スピーカーを復刻)
12/22 (日)	記念品事業 委員 (原田、 菅沼) 事務局、他 委員 (6 名)	記念事業運営委員会 (論文顕彰、記念品、終陵セミナー、同窓会、各事業の進捗報告会議)。記念品事業として、上記の全案 (A～C、# 1～# 4) を紹介。他の委員の意見を聴いて方向性を決めていく目的。 オリジナリティに溢れ、皆で協力しての製作となることの意義も深く、所有する高校側の価値向上につながり、音質劣化した体育館スピーカー (ノーベル賞益川先生の講演会で不具合発生との情報) の更新もできるとのことで、 # 4 が圧倒的に支持を集めた 。(各案の評価は、3 ページの【参考】を参照下さい) ただし、高校側が受け入れ可能か不明なため、案を決定する前に、高校側に全案を提示して、 受け入れ可否をまず確認する 、という動きをすることで合意。
2014/ 1/16 (木)	記念品事業 委員 (杉江 伸、岩部、 原田、菅沼)	高校側に全案 (A～C、# 1～# 4) を提示。(谷川教頭先生に提示) 各案の受け入れ可否について、教職員内でご検討頂き、1 月中旬に回答をいただけることとなった。
1/22 (水)	谷川教頭 →菅沼	電話連絡。「 提示した案のどれでも、すべて受け入れ可能である (県教委などに対する障害はない) 」「もらえるものはありがたく頂く立場」とのご返答。ただ、以下の意見は教職員から出たとご紹介あり。 ●# 4 は、やはり置き場所が心配である。ステージ (舞台) の袖に納まるか。 ●# 4 は、ステージ (舞台) 袖に納めていても、在校生の部活動時に誤って壊されないか。また、他校生との試合時に選手の更衣場所としてステージ (舞台) を使うことがあり、そのときに他校生に不用意に壊されないか心配。 ●# 1 は、現状品は小さすぎる感があったので、ありがたい。 ●(やはり) 県の予算が下りない終陵会館エクステリア整備事業がありがたい。「 全て受け入れ可能とお聞きしてひとまず安心した 。予算 (協賛金の集金具合) を踏まえながら検討を深め、決定したら連絡します」と返答。

時系列	対応者	活動内容
2/15 (土)	記念品事業 委員 (杉江 伸、原田、 菅沼) 事務局、他 委員 (4名)	各案の見積が出揃った。高校側の回答 (上記)、協賛金の集金状況も踏まえて記念品事業の案を絞り込み。 高校側が受け入れ可能という回答をもらったなら、 #4 : 体育館用スピーカ の製作 で進めよう ということ合意。
2/27 (木)	記念品事業 委員 (原田、 菅沼)	再度の体育館現場確認も兼ねて高校を訪問。記念品事業としては #4 を進めていくことを申し上げたところ、谷川教頭先生は難色を示された。 先生：「生徒がつまづき怪我する懸念」「使用に一手間 (その都度の出し入れ) あると使い難い」「生徒が壊してしまう懸念」 当方：「置くスペースは十分あり」「周囲を囲うなどの措置を取れば問題ない」 「手間は、(1)ケーブル類の接続 (コンセントを差すのと同等のイメージ) (2) スピーカー本体を前に出す のみ」「材料をすぐにも発注しないと消費税がアップし予算を超過する懸念」 再度、学校で検討し回答を頂くことになった。
3/7 (金)	谷川教頭 →菅沼	電話連絡。「 スピーカ の寄贈は、 遠慮頂きたい 」 卒業式の前 (2/27 より前) に、事務局が業者に音響関係の調査を頼んで、何らかの調整や修理作業が行われた結果、卒業式 (2/28) では、特に問題なく卒業式が遂行できた。今は音響設備全体に故障、不具合がなく、普通に使えるので、スピーカをもらっても、「お蔵入り」になる可能性が高い。それでは申し訳ないので、スピーカ寄贈は遠慮していただけないか。 (校長や他の先生にも意見を聞いているとのこと)。 ↓ 「最初に頂いた、どの案でも受け入れる、というお言葉をたよりに、36 回生のたくさんの方の意見を聞いてスピーカ案に落ち着いた」 「この時期にそんな話では、例年通り秋に寄贈するスケジュールを守れない。いまさら、振り出しに戻って寄贈品の再検討は困難である」 「我々がこだわるのは、せつかく贈るなら、他の学年でもできることとは一線を画した、オリジナリティのあるものを贈りたい、ということである」 「スピーカは、オリジナリティにあふれ、多くの人が協力して手造りで進めるので、外注して贈るものとは違って心を込めて在校生に贈ることができる。在校生で音楽の好きな人はうれしいと思うし、我々にも達成感、充実感がある」 「実物ができて、その良さが実体験できれば、お蔵入りすることはなく、喜んで使ってもらえるものになるはずだ」 などと話すも、話は平行線。 36 回生で相談の上、近々にまた相談には伺う、で終わる。
3/9 (日) 午前	記念品事業 委員 (杉江 伸、原田、 菅沼) 事務局 (2 名)	3/8 にメールや電話でこの日欠席の委員の意見も聴取し、まとめた上で対応策を協議。この日の主な意見は以下の通り。 ①高校側の対応の変化「受け入れ可能である」→「遠慮頂きたい」に翻弄されており、こちらはきっちり段階を経て準備してきたのに、到底納得できない。 ②我々に近い先輩方とのやり取りも必ずしも上手くいっていないことが聞こえてくる。高校側の近年の対応がいつもこんな調子ではないのか。今後のためにも 30 周年記念事業に対する高校の対応を変化させる一石を投じる必要があるのではないか。 ③記念品事業は、同級生から託された協賛金の大半を使う、責任が重大な事業である。今の状態からどう進むにせよ、委員だけの意見では、委員以外の同級生の理解納得が得られるかの保証はない。 HPなどで今までの経緯を開示、告知し、広く意見を聴いた上で、我々の態度を決める必要がある。

時系列	対応者	活動内容
3/14 (金)	菅沼 →谷川教頭	電話連絡後、上述の活動内容時系列をメール送付。高校側の確認を取るため。高校側に対し、上述の時系列を36回生の30周年記念事業のHPに開示し、記念品事業の進め方に対して広く意見を聴く行動をとる、ということを知り。
3/18 (火)	谷川教頭 →菅沼	メール連絡。活動内容時系列の確認と共に、以下の返答を頂く。 「36回生の方々からの善意で贈っていただける記念品ですので、 県からの許可がおりない物でない限り、ありがたく頂戴する基本的な姿勢は変わっていません。 ただ、せっかくいただける物であるならば、生徒にとって有効な物、県費等では購入できない物が非常にありがたいということを説明してきたつもりです。そのため、校舎会館の周囲の整備、玄関のトロフィー等を飾る棚を強く希望したつもりです。 スピーカーについてはすばらしい物だと思いますが、卒業式に向けて修理した結果、体育館のスピーカーは正常に作動しています。また、かなり大きな物ですので置き場所の問題、使い勝手の問題など、様々な状況を考えると、せっかくいただいても使用頻度が少なくなってしまうかもしれません。そのことをご理解ください。 いろいろ書きましたが、学校としては36回生の皆様のお心遣いに非常に感謝しております。決して文句を言ったり、けちをつけるつもりはありません。そのことだけをご理解いただき、今後も母校の発展のためにご協力をいただきたいと思っております。」

2. 上記のやり取りを経て、記念品事業の担当委員側として受ける印象・解釈

- (1) スピーカーを贈呈したとすれば、高校側は受け取り拒否はしない。(使うとは限らないが)
- (2) (スピーカーに限らず) 贈られた物は大切に扱うべき(使用しよう)という配慮は欠けているようだ。
- (3) 「生徒にとって有効な物、…が非常にありがたい」と書かれているが、それは今回出てきた案全体の中で、ずばりどれか？我々とは意見が異なるようだ。
(谷川先生：トロフィケースか校舎会館エクステリア整備 我々：スピーカー)
- (4) 高校側の対応によって我々が困り、また怒っているんだよ、というメッセージへの感受性が低い。
(悪いと思っていない？「対応悪いよ」とこちらから指摘されて態度を硬化した？)

【参考】各案の評価(実行委員の意見総括)、見積と、記念品事業の予算見通し(協賛金の集金状況)

案		評価(実行委員の意見総括)		見積/予算
校舎・ 体育館 南側	A: ウッドデッキ+犬走り設置	いちばん目立ち、面積も最大となる南側には格	×	1,200,000円
	B: ウッドデッキのみ設置	好いものを整備したいが、予算が不足する。	×	1,080,000円
	C: インターロッキング設置	東側の整備実績との連続性を持たせつつ、予算に合わせた案だが、整備面積がやや小さい。	△	850,000円
校舎・ 体育館 備品	#1: トロフィー類展示ケース	造って贈る価値はあるが既製品の購入でもできる。他の学年でも整備可能。	△	850,000円
	#2: 来客用下駄箱・傘立てなど	面白みがない。県予算でも整備できそう。	×	(未算出)
	#3: 半田の祭りの山車の模型	展示されるだけでは寂しい。	×	1,500,000円
	#4: 体育館用スピーカー	音質劣化した既存品を改善できる。皆で手作り製作。高校側の価値向上。オリジナリティ発揮。	◎	800,000円
記念品事業の予算見通し(協賛金の集金状況から判断)				800,000~ 900,000円

以上